2009年早春

122期生の５名の生徒と２人の教師が、新たな出会いを求めてシアトルに向け旅立ちました。

この小冊子は、その記録です。

①2009年度Kent地区高校訪問記（生徒編）

(1) シアトルにて　３年２組　K.M.

(2) I will never forget...　３年３組　O.R.

(3) Nice meeting you.　３年４組　S.H.

(4) 初海外!!　３年５組　M.N.

(5) わたしのもうひとつの家族　３年７組　K.Y.

②2009年度Kent地区高校訪問記（教師編）

(1)8000kmを越えて（第２部）（Kentwood高校編）

（2009年３月21日（土）～３月27日（金））

英語科　小林　正樹

(2)（Kentlake高校編）

（2009年３月28日（土）～４月３日（金））

英語科　佐川　昭

①2008年度Kent地区高校訪問記（生徒編）
シアトルにて

3年2組　K.M

今回のケント派遣は本当に楽しかったし、両親、学校の先生方にはとても感謝している。正直、何故か出発前はドキドキとかワクワクとか感じなかった。本当にやっていけるのか、という不安の方が大きかったのかもしれない。でも、今思うと 2 週間何とかやっていけた。現地のみんなはテンションが高くて、自分も高くないとやっていけなかったと思う。だから、時々疲れたりもしたけど、ホームシックにはならなかった。帰って来てから少しだけ、逆ホームシックになった。

一軒目、ケントウッドの方のホストはロブ（左）だった。本名は Robert で、ずっとロバートと思ってたら、ロベルトって呼んでる人もいて、結局今でもどっちかわかりません。ロブはホントにいいやつで、どっちかというと兄貴みたいな感じだった。テンションはかなり高くて、すぐに仲良くなれた。そんなみんなの笑わせ役みたいな感じだったけど、常に僕を気遣ってくれた。

二軒目、ケントレイクの方のホストはコリー（右）だった。コリーはどっちかというと、同期の仲良しみたいな感じで、調子に乗ると危険だった。例えば運転してるとき、テンションがあがると、エキサイティングな運転するらしい、若干やんちゃな一面もあった。そんな彼は実はかなり頭がよくて、クラスで 1 位か 2 位ぐらいらしい。

一日目は飛行機がかなりつらかった。8 時間ぐらい窮屈なシートでじっとしておかないといけなかったし、到着時刻は日本時間の夜中だった。それを見越して、前日は徹夜したのだが、とにかくお風呂に入りたかった。到着するとすぐにそれぞれのホストの家に分かれた。時間は現地時間で、だいたい 8 時ぐらいで、土曜日。家族は温かく迎えてくれた。とりあえずついてすぐにシャワーを浴びさせてもらった。僕は体を洗うタオルを忘れて 2 週間ずっと、手がタオルだった。だから来年行く人は忘れないように。あとシャンプーとか洗顔用品とかも持っていったほうがいいかも。そのあとは ROCK っていうピザ屋に行った。この店はかなりロックな店で、店内にはバンドのポスターが張ってあったり、サングラスをかけて髭をはやしたロックなおっちゃん、おばちゃんが家族連れで来ていた。

二日目はステイシーとボニーと木埜さんとスペンサーと音石君とで、でっかいモールに行った。ステイシーは木埜さんのホスト、ボニーはステイシーの妹、スペンサーは音石君のホストだ。モールはホントに大きくて、服から靴からお菓子から宝石までなんで

もあったし安かった。トワイライトは異常に人気があった。平日は毎朝 5 時起きで、教会に行った。授業は正直、何言っているかさっぱり分からなかった。日本語のクラスには日本に来たことがある生徒がいたし、親しみやすかった。

ロブのお母さんの誕生日と僕の誕生日が近かったため、一緒に誕生日パーティをしてもらった。ロブのおじいちゃんとおばあちゃんも来てくれて、紙袋いっぱいにプレゼントをもらった。最高の誕生日だった。

あっという間に 1 週間が終わり、コリーの家にお世話になった。ロブとの別れはつらかった。コリーの家はビックリするぐらい大きくて、1 階はほとんど僕だけが使っていた。コリーの家族もいい人たちで、僕が行きたいと言ったところにはほとんど連れて行ってくれた。ダンスパーティに行ったりもした。これは本格的なパーティで、ドレスチェックもあった。会場では女性に近づき過ぎてはいけないという、制限まであった。日本料理店にも行った。みんな日本人に見えて実は韓国や中国の人だった。お寿司を頼んで、確かにおいしかったが日本っぽくなかった。アメリカの食べ物は基本甘い。

最終日の前の日にはみんなで買い物に行った。そこでコリーの提案で、おそろいのポロシャツを買った。これはなかなか気に入っていて、サイズは XS でちょうどだった。

この 2 週間がこんなに楽しいものになるとは思ってなかった。来年行こうか行かないか悩んでいる人は絶対に行ったほうがいいと思う。この経験は人生の糧になるだろうし、絶対に英語が好きになると思う。ちなみに今年の夏にはコリーとボニーが日本に来る予定です。

I will never forget…

3 年 3 組　O.R.

まず何よりも先に言わせて頂きたいことがある。めちゃめちゃ楽しかった！！この企画に応募した時は、本当に自分が行ってもいいんだろうかと思ったこともあるが、今なら断言できる。この企画に参加できた事に悔いは全くない！こんな幸せな気持ちのままで居られるのなら、今死んでも構わないとさえ思ったこともある。この企画に携わって下さった全ての人、先生、ホストファミリーに心から感謝したい。

さて、今回のホームステイは、飛行機内でアナウンスの英語が全くと言っていいほど聞き取れなかったり、空港での税関との簡単な(はずの)会話で　gPardon? hを 4 回も使っ

てしまったりして不安な幕開けとなった。空港では、一軒目のホストの Irwin 家の Spencer(スペンサー)とお父さんが迎えに来てくれた。家へ向かう車の中、当然ながら、外に見える標識が英語だったり、車が右側を走っていたりして、本当にアメリカに来てしまったんだなと改めて実感するとともに、家族との会話が思ったよりは成り立ったので少しだけ安堵した。

到着した土日はホストとの時間ということなので、Spencer と多くの時間を過ごす事が出来た。家はとても大きく、車が 2 台に、ペットは犬が 2 匹と猫が 2 匹、庭にはトランポリン、という風に広々した家に驚かされたが、さらに驚いた事は、そんな感じの広い家がそこら中にごろごろあることだった。やっぱアメリカは広いんだなと思った。Spencer は常に僕が退屈しないよう気を使ってくれていたのが有難かった。彼は日本のアニメが好きで DVD を持っていたのでそれを少し見たが、日本で見た事がないアニメをアメリカに来て見るとは思ってもいなかった。しかも英語の字幕付きで。(笑) Spencer は自分で自分の事を「オタク」と言い、「萌え」とでかでかと書いた T シャツを持っていた。gDo you know the meaning? hと尋ねたら彼は gYes hと一言。本当に意味を分かっているのか疑問だったが、日本で「萌え T シャツ」を着る気はないそうなので安心した。オタクと言っても日本みたいな暗いイメージは彼には無く、彼はただ単にアニメが好きなだけなようだった。彼とは上手く過ごす事ができたと思っている。この土日に WBC も見たが、アメリカ人は我々日本人が思うほど野球に関心を持っていないように思われた。テレビで WBC をまともに観戦していたのは家族の中で僕だけだったと言っていい。それでも家族のみんなは gDo you like Ichiro? hと声を掛けてくれた。さすがイチローは有名だった。

月曜日からは Kentwood に通わせてもらった。向こうの学校は今までの先輩の言うようにとにかく広くて開放的な印象だった。こんなに土地を広々と使えるアメリカが羨ましく思われた。学校の授業を色々見させてもらったが、どこの授業に行っても生徒達は僕達を暖かく受け入れてくれた。すごい時には、まるでヒーローが帰ってきたかのように歓迎してくれる事もあった。いや、これは言い過ぎか？(笑)向こうでは先生が教室を移動するのでなく、生徒が教室を移動する。それゆえ休憩時間中には教室を移動する生徒でごった返して Spencer とはぐれそうになった。小林先生は生徒が教室を移動するのを羨ましがっていた。(笑)授業風景について言うと、授業中に立ち歩いたりガムを食べたり友達同士でしゃべっていたりしていて授業に無関心かと思いきや、分からない所があったり先生が質問したりすると、手を挙げ積極的に先生に意見を言っていた。先生だけが授業を作るのでなく、先生と生徒が授業を作っている印象を受けた。生徒が信用さ

れているがゆえに授業に関係ない話をしていたりしても多少は許されるのだろうと感じた。最も興味のあった日本語クラスは、「みなさん、おはようございます」、「先生、おはようございます」、「みなさん、元気ですか」、「はい、元気です。お蔭様で」という日本の小学校低学年(？)を思い起こさせる挨拶で始まった。単語テストの発音を頼まれたり、生徒から質問攻めを受けたりした。質問が途切れる事が殆ど無く日本に興味を持ってもらえていることが分かって嬉しかった。日本語で話すこともあってゆっくり話したつもりが、彼らにとっては速く感じられたらしく「ゆっくりして下さい」と生徒からお叱りを受ける事もしばしば。

２週目に通う Kentlake でのホストは Rockey 家の Sean(ショーン)だった。彼は話すのが速く、初めて会った時にはこれから彼と上手くやっていけるか不安になったが、ゆっくり話すよう頼んでからは何とか聞き取れるようになった。もしまた彼に会う機会があったらその時はゆっくり話してもらわずに会話できるようになりたい。土日には彼とお母さんと Snoqualmie という滝(「ツインピークス」という映画のロケ地だったらしい)を見に行ったり、シアトルへ観光に行ったりした。色んな所へ行く度にお母さんが分かりやすい英語でその場所の説明をしてくれたのでとても楽しむ事ができた。また、Sean はテコンドーを 10 年ほど習っていて、練習を見学しに行ったりもした。余談だが初め僕は gSean h を「スィーン」だと思っていて、その事を彼に伝えると苦笑されてしまった。(笑)

Kentlake は学校全体で僕達を歓迎してくれている雰囲気だった。授業風景は Kentwood とおおよそ似ていたが、少しだけ Kentwood よりも生徒が大人しい印象を受けた。とは言え、彼らがフレンドリーである事に間違いは無く、とても楽しめたと思っている。また、日本語クラスの先生が日本人だという事もあって安心感があった。Kentlake で催された CBF(cherry blossom festival)で披露したダンスも予想以上にウケが良くて、やった甲斐があった。

今回の訪米が初めての海外で、まともに外国人と話したことがない僕だったが、英語は心配していた程伝わらないわけでもなかった。が、この旅が英語において自分に欠ける物を明確にしてくれた。それはリスニング能力だった。自分の意図する事は伝えられても、相手の話を聞くのがとにかく難しかった(相手にも因るが)。また、「アメリカに行って反米になって帰ってくる者は少ない」というのを聞いた事があるが、僕もその例に漏れる事は無かったようだ。異国人であった僕達をどうしてあそこまでしてくれるのだろうと思う程に、ホストファミリーも向こうの学校の先生、生徒も持て成してくれた。それゆえ別れの時にはどれだけ名残惜しかったことか。どんな手を使ってでも良いから

もっと長く居たいとどれだけ思ったことか。感謝、惜別、色んな感情がごちゃまぜになってどう言ったら良いかわからないが、悔いはない、そんな思いを胸に僕達はアメリカの地を後にした。

Nice meeting you.

3 年 4 組　S.H.

　このプログラムに参加することができて、心からよかったと言いたいです。
帰ってきて丸 1 週間はアメリカシックで何をする気も起きないくらい、衝撃的で楽しかった 2 週間でした。

　出発前、このプログラムに参加するに当たり何かひとつアメリカと日本の違いを見つけ、いいところに学ぼうということを決めていました。そして感じたことが、「個人」としての意識の高さでした。日本人と比べて同じ 17 歳、扱われ方ももちろん違っていたのですが、なによりその本人たちにそう扱われるべき一人の人間としての十分な自覚があることに驚きました。たいしたことのない日々の課題や教師と生徒の会話の端々にもそれが感じられて、感嘆すると同時に見習わなければいけないと思いました。

　１週目のホストの Daisy の English クラスの課題では、本を読んでその場面をビデオカメラで撮ってプレゼンするというものがあり、そのグループでの撮影に参加させてもらいました。そのときに Daisy たちは服を買いに行き、雰囲気のあったキャンドルを灯し、その場面に登場するクッキーやコーヒーまでセッティングして見せてくれました。
カメラワークも凝っており、出来上がったものを皆で見たときはほんとうに（このような楽しい宿題が出ることも含めて）日本との違いを感じました。

　ホストをしてくれた Daisy と Sarah は二人ともとてもやさしくてキュートな女の子で、毎日わたしが快適に過ごせるように気を使ってくれたので、素晴らしい時間を過ごすことができました。週末の観光、学校での会話は、やはり始めはどうしても聞き取れない上に（途中知らない単語に引っ掛かるとその後は全く駄目でした）、切れ切れの単語でしか話せなかったので、もどかしくて仕方がなかったのですが、3 ～ 4 日ほどしてだんだん聞き取りができるようになってくると、以前に比べて驚くくらい会話がスムーズに出来るようになりました。聞き返さずに長文が聞き取れたときは嬉しかったです。また二人は全くタイプの違う女の子で、興味の方向や友人も全然違っていたので、一週間目

と二週間目ではそれぞれ違った興味深い体験ができて面白かったです。

ただ、共通していたのは二人とも日本に強い関心を持ってくれているということで、Daisy とは、持って行った日本のティーンズ向けファッション雑誌で盛りあがり（日本の服はとても高いと驚いていました。何度も連れて行ってもらったショッピングで、わたしもアメリカの、特に靴と化粧品の安さに驚きました。）、Sarah は Anime club の部長ということで部屋には沢山の日本のマンガやアニメの DVD があり、そのような話題で楽しみました。

学校でもたくさんの楽しい経験が出来ました。授業は二人とも AP クラスというレベルの高い授業を取っていたせいか、想像していたような日本の授業との大きな違いというのは見られませんでしたが、それでも授業中の勝手な飲み食いや、積極的な生徒の質問や発言にはアメリカらしい大らかさや自由さが感じられました。

クラスでは話しかけてくれる子もたくさんいて、大勢の友達ができ、写真もメモリーが一杯になるまで撮りました。いまでもそれらを眺めると楽しい気分が甦って来ます。「英語話せる？」と聞かれて、「少しだけ」と答えると授業そっちのけで筆談してくれる子もいてほんとうに嬉しかったです。特に日本語クラスではより多くの人と話せ、友達になることが出来て、毎日クラスに参加するのが待ち遠しいくらいでした。よく、「アメリカはどう？」「日本とはどこが違う？」と聞かれて、気持ちを伝えるのは簡単でも、言葉で上手く説明することが出来なくてもどかしかったのを覚えています。それでもみんなが根気強く、たどたどしいわたしの英語を聞いてくれたからこそ、こんなにも沢山の楽しい思い出が出来たのだと思います。

映画館でうっかり寝てしまったり、雑誌の心理テストで盛り上がったり、シアトルの観光にグループで出かけたり、スターバックスで何時間もみんなでばかな話をしたり、アートの授業中先生の話も聞かず鶴を折ったり、ジムクラスでのドッジボールが楽しかったり、自動販売機と日本人みんなで格闘したり、まずいピザを食べたり、ベッドの上で好きな人の話をしたり・・・

たったの二週間、日本で過ごすと知らない間にすぎてしまう期間に、どれだけ一杯の思い出が詰まったか分かりません。

Daisy と Sarah との最後のハグがどれくらい悲しくて切なかったか、今でも忘れられません。空港のゲートをくぐる時に、本当にアメリカを離れるのだと実感して涙が溢れそうになりました。これだけではとても書き終えていないくらい多くの大切な出会いがあって、沢山の忘れられない経験が出来ました。

最後になりましたが、このような素晴らしいプログラムを支えてくださった全ての

方々に心から感謝いたします。本当にありがとうございました。

初海外!!

３年５組　M.N

３月21日午前８時過ぎ、私たちはシアトルへ上陸しました。９人（北野生５人＋阿武野生２人＋先生２人）のうちの何人かが荷物検査で注意を受けたり、アクシデントもあったけれど何とか入国審査を済ませてそれぞれのホストファミリーと対面しました。私のホストの Jennifer はお母さんと二人で迎えにきてくれていました。とても優しくて明るい子で、何だかほっとしました。が、Jennifer は殆ど日本語ができなかったし、私も英語は正直あまり得意ではないので、なかなか意思の疎通ができず、これはエラいことしちゃったかも c と早くも不安にかられてしまいました。（日本人達とは空港でお別れだったし）

Jennifer はお父さん、お母さん、お姉さん、妹の５人家族でした。最初の土日は、親戚の皆さんも家に来てくれて、みんなでワイワイしたり買い物に行ったり家で映画の DVD を観たりして過ごしました。休日が終わる頃には何となく言葉も通じるようになってきていて、自分でもびっくりしました。

月曜日からは Jennifer と一緒に学校へ行きました。月曜日の朝食はシリアルで、これぞアメリカだ、と変なところで感動しました。
ケントウッド高校の生徒は皆本当に優しくて親切で、学校生活が楽しくて仕方なかったです。（授業は英語なので、殆どわからなかったけど）
Jennifer がテニス部に所属していたので、私も一緒にテニス部を見学しに行ったりしていたのですが、テニス部の部員達が（顧問の先生を含め）本当にいい人達ばかりで、練習の合間によく話しかけてきてくれて、本当に楽しかったです。

水曜日のシアトル観光を経て、木曜日。この日はホストチェンジの日でした。一週間をほとんど一緒に過ごした Jennifer とその家族と別れるのは本当に寂しくて、泣きそうでした。夕方６時頃、ケントレイク高校へ行って、二週目のホストの Holly に会いました。Holly は良くも悪くも Jennifer とは正反対な感じの女の子でした。Holly の家で過ごした一週間、私は Holly と同じ部屋を使っていたのですが、彼女はかなりのアニメ＆漫画オタクらしく、部屋にはたくさんのアニメや漫画のポスターが貼られていました。ま

た、本棚には日本の漫画の英訳本がずらりと並べられていました。中には私の知っている漫画もあったので、その漫画の話をして盛り上がったりと、話題にはあまり苦労しませんでした。

金曜日にはチェリーブロッサムフェスティバルがありました。日本文化を紹介するというコンセプトのお祭りなので、焼きそばやカレーライス、おにぎりなどの日本食（といえるのか、日本人からすれば微妙なところですが／笑）が売られていました。久しぶりに焼きそばやおにぎりを食べたのですが、それが本当においしくて、まさか自分がここまでおにぎりをおいしいと感じる日が来るなんて、とかなりびっくりしました。
また、私たちは舞台で、直前に猛練習したダンスを披露したのですが、そのときの客席の盛り上がりが、本当に日本、というか北野じゃ考えられないほどの大きなもので、嬉しかったです。

アメリカに来て最初の一日や、ホストチェンジの直後など、やはり何度か日本や一週目の家が恋しくなる、いわゆるホームシックもあったし、アメリカでの生活は、例えばお風呂や公衆トイレのドアの短さなど、日本と比べて不便なところもありました。でもこの二週間、そんなことが全然気にならないほど、本当に充実していて楽しかったです。思い出もたくさんできて、本当はこんな短い文章では伝えきれません。いつかまた、Jennifer と Holly、その家族、そして親切にしてくれた学校の先生方や生徒たちに会いに行きたいと思います。初海外・英語全然ダメ・コミュニケーション力ない、と三拍子揃ってしまっている私が二週間もアメリカで生きていられて、かつ楽しい思い出をたくさんつくることができたのは、私がアメリカで関わった全ての人（日本から一緒に来たみんなや先生を含め）のおかげです。本当にありがとうございました。

わたしのもうひとつの家族

3 年 7 組　K.Y.

十時間余りのフライトを終えシアトル国際空港で私を出迎えてくれたのは一軒目のホストの Stacey とそのお母さんでした。最初は私から話しかけてみたりしましたが会話が盛り上がらずこれからやっていけるか少し不安になってしまいました。しかしその後妹の Bonnie と会って 3 人で話すうちに打ち解けていきました。Stacey の家は 6 人家族で中国系アメリカ人の家庭だったのでみんな中国語を話し、ご飯も中華料理が多かったです。

中でも Stacey と Bonnie は英語がぺらぺらで日本語も上手でした。Stacey は学校で日本語クラスの優等生として日本語を教える資格みたいなものを持っていました。ちなみに彼女の口癖は「マジで〜!?」です。(笑) Bonnie はやんちゃでチャイナドレスの似合う女の子で Stacey ととても仲が良かったです。遊びに行く時はだいたい 3 人で、家では愛猫の Choco と戯れたり Wii や恋バナをしてよく盛り上がりました。Stacey は車の免許を持っていて Kentwood 高校へは Bonnie と私を乗せて毎日車で通っていました。アメリカでは車で学校に通うのは当たり前のことで学校には大きな駐車場がありました。またどこかへ遊びに行くのも常に車で、Stacey は邦楽が大好きだったので車内では BoA や安室奈美恵の歌を聞いたり一緒に歌ったりして楽しかったです。

Kentwood 高校は広くて学校の雰囲気も親しみやすく、すぐに気に入りました。生徒はみんなフレンドリーで向こうからたくさん話しかけてくれて嬉しかったです。日本語のクラスはとても自由で、日本語の文章を読んだり文法を学んだりして静かに授業を受けるのではなく、折り紙を折って紙飛行機を飛ばしたりパーティーをしたり、花より男子などの日本のドラマを見たりでその授業が終わることもありました。Stacey は他に数学、英語、中国語、心理学の授業をとっていました。数学や中国語は日本語クラス同様小テストやゲームで一コマが終わるようなゆるい感じで、心理学の授業は討論形式で英語はプレゼン中心でした。

2 軒目のホストは Kentlake 高校の Tabitha でした。6 日目の夜に両校のホストを交えた。ピザパーティーでホストチェンジが行なわれたのですが、私はその夜から Stacey 家への重度のホームシックに陥ってしまい Tabitha の家では自分の部屋に閉じこもっていることが多くなってしまいました。そんな私に Tabitha や両親はとても親切にしてくれて本当に救われました。その後の土日には家族が観光に連れて行ってくれ、そういうみんなの気遣いのおかげで沈んでいた私の気持ちも徐々に回復してきて家族のやさしさを感じました。Tabitha のお母さんの英語は今まで出会ったアメリカ人の中で一番わかりやすかったです。またお父さんは「日本とアメリカの最も大きな違いは何か」とか「日本の総理大臣はどうしたら辞めさせられるのか」など英語で説明するのが難しいことを多々聞かれ、電子辞書を使いながら一生懸命答えました。でもやはり日常会話は何とかなっても、こういう質問にも的確に答えられるようにならなければ、本当に英語の力がついたとは言えないな、と実感しました。

Kentlake 高校はきれいで立派な校舎で、初めて訪れた時には歓迎パーティーをしてくれました。Kentlake 高校でもよく日本語クラスに行きましたが、こちらは日本人が教えているとあって系統だった授業でした。またホストと一緒の授業を受けたのは一日だけ

で、あとは私を含めた北野の生徒 5 人でフランス語やドイツ語、陶芸のクラスなどを見て回り、それぞれの授業はユニークで生徒が進んで興味関心を持って授業を楽しみ、積極的に取り組んでいるという印象を受けました。その中でもオーケストラの授業が楽しかったです。私がオケ部でヴァイオリンをやっていると言ったら、その授業のオケに入れてくれて一緒に演奏させてもらいました。アメリカの生徒に混じって弾くというのはもちろん初めての体験で、言葉や文化が違っても音楽を愛する心は同じなんだなと思いました。

最終日、空港のお見送りの時に Tabitha が「アメリカに来たらいつでも泊まって」といってくれたのが嬉しかったです。また Stacey も来ていて、渡された封筒の中に手紙と一緒に「friends forever」と書かれたブレスレットを見つけたときにはとても感動し涙が止まりませんでした。その時、私の拙い英語でもこんな心の通いあう友達ができて国境を越えた友情を感じました。

このような貴重な体験をさせてもらい本当に感謝しています。お世話になったたくさんの方々、ありがとうございました!!これからも Kentwood、Kentlake で得たつながりを

②2008年度Kent地区高校訪問記（教師編）
8000㎞を越えて（第二部）　－ケントウッド高校滞在記－

英語科　小林正樹

今から 3 年前の平成 18 年 3 月 26 日（日）～ 4 月 2 日（日）の約一週間、私は本校 119 期生の 5 人の生徒とともに渡米し、ケントレイク高校に滞在した。彼らは、北野に転勤後の初めての教え子たちであった。今回、担任の一人として日々接している 122 期生とともに、再びシアトルの地を踏み、本校と姉妹校提携をしているケントウッド高校での生活を体験することとなった。この報告文に 8000 ㎞を越えて（第二部）と冠したのは、そのような経緯からである。

また、平成 19 年度、20 年度の夏期のシアトルからの派遣生徒、秋季の中国からの派遣生徒ののご家庭への受け入れ等、保護者の皆様には本校国際交流活動へのご理解、ご支援を頂いたことに、この場を借りて再度お礼申しあげたい。

さて、平成 21 年 3 月 21 日（土）午前 10 時 30 分。予定通りに、派遣生が関西空港４

Ｆ国際線ロビーに集合していた。彼らは 122 期生の渡米希望者 27 名のうち、幸運にも選抜された 5 名である。3 年前より、年度末の校務多忙のため、引率教員は、滞在期間二週間の前半、後半で交代をしているが、今回、私は前半のケントウッド高校での滞在を選んだ。一週間の滞在中、交流活動の責任者として特に確認したいことは次の 2 点であった。①天王寺高校、三国丘高校を始め、多くの姉妹校を持つ高校では、英語科以外の教員が派遣される場合、現地の家庭にホームステイするかホテルに滞在するのかは、引率教員が選択することができる場合が多い。それがシアトル郊外のケント地区で可能であるか。②前回滞在したケントレイク高校では、副校長を中心とした委員会を組織し、学校全体の取り組みとして姉妹校交流を実施していた。日本語講座の担当教員が中心となっているケントウッド高校では、どのような運営方法をされているのかを確認したいということ。

前回は、私はシアトル市内に滞在していた。その折にシアトル市内および近郊の観光スポット等の様子は、前回の手記を本校ホームページに掲載しているので、そちらをお読みいただくとして、今回は主に、ケントウッド高校での授業内容（特に日本語講座）、昼食のシステム、コビントン市の市長公式訪問、生徒たちの初のミュージカル鑑賞の様子、そして前述した今回の私自身の二つの課題の一応の解決策と、この留学プログラムの今後の展望とをお知らせすることにしたい。

同じ日を二度過ごすこととなった 3 月 21 日午前 8 時 20 分、定刻通りノースウェスト 28 便はシアトル・タコマ空港に到着したはずだったが、生徒二人が税関をなかなか（30 分余り）通れずにいたので、結局出迎えに来てくれていたホストファミリーと会えたのは９時を過ぎていた。合衆国は、食品の持ち込みが最近特に厳しく、カップヌードルに入っているニンジンと、レトルトカレーに入っている同じくニンジンが持ち込めず、スーツケースを開けられ没収となったとのこと。

生徒たちは嬉しそうな、やや不安げな顔をして、それぞれの家庭へと向かっていった。私のホストはケントウッド高校で special needs education（特別ニーズ教育、特別支援教育［【略】SNE ］。（障害の有無だけではなく、個々の子供が持つ特別なニーズ［教育的支援の必要性］に応じた教育を提供しようという考え方）を担当しておられるショー先生(Mr. Shaw)だった。36 歳独身、婚約しておられ、フィアンセの Erica さんとお二人で迎えに来てくださっていた。昨年の 9 月に住居も購入されたばかりとのことだった。

空港内のスターバックスで、しばし休息の後、シアトルのベイエリア(Pike Place Market)とダウンタウンを案内していただいた。懐かしさが溢れた。二度目のスペースニードルは、あいにくの小雨であったが霧にかすむ Mt. Rainier を塔上から見ることができ

嬉しかった。昼食をとり、車で 1 時間ほど走り、ショー先生のお宅に到着した。

ショー先生は、日本にとても興味を持たれていて、近い将来、ケント生を引率して大阪を訪れたいと話されており、お土産の中では、飾り扇が特に気に入られたようだった。侍Ｔシャツはエリカさんに好評だった。今、この国は漢字ブームで彼女は首の後ろに「友人」と Tatto を入れておられて、その意味を尋ねられた。多くの人の入れ墨に選ばれる漢字はその意味よりも形で選ばれているらしい。中には「台所」と腕に入れておられる人も見かけて驚いた。

週末の予定は、翌日の 22 日（日）はタコマ市の観光と、ショッピングとのことだったので、夕方 4 時頃、ショー先生にお願いをし、ケントウッドとケントレイク高校の周辺で、学校まで通えるホテルに連れて行っていただいた。車で 10 分圏内に 4 件あり、まわりにレストランやショッピングセンターが多いという視点で、HOTEL EXTENDED STAY AMERICA に絞り込み、費用や設備などを見学に行った。宿泊費は、素泊まりで税込み 56.19 ドル、2 週間借り切った場合、600 ドルでよいとのことだった。小高い丘陵にあるホテルで、丘を下ると徒歩 5 分圏内に、WAL-MART を始め、大型スーパーが 2 店舗あり、SUSHI-BAR や ITALIAN FOOD, CHINESE FOOD, STEAK etc 、ジャンクフードを含めると、食事ができる場所も 20 件以上あった。

翌朝 9 時に迎えに来てくれるようショー先生にお願いをし、体験宿泊をする。部屋にはキッチンも付いているので、簡単な朝食なら作れそうだ。一人暮らしの経験のない私には、電子レンジが役立ってくれるだろう。まず、買い物に行く、スーパーの規模はやはり大きい。端から端まで歩くのはかなり大変だ。水と、その他の飲み物と、朝ご飯にと冷凍食品のラザニアとその他諸々を購入。日本で滅多にスーパーになど行かない身にはかなり新鮮で、楽しかった。何が秘密か分からなかったが、HIMITSU SUSHI RESTAURANT で夕食を食べ、部屋に戻った。

朝まだ暗い 6 時前に、突然火災警報機が鳴り響いた。廊下に各部屋から顔を出し、何が起きたんだと声を掛け合い、とにかく避難した。消防車が二台駆けつけ、本場の fire fighter たちも目のあたりにした。後で報知器の誤作動と判明するのだが、予期せぬパニック時の英会話の体験もすることができた。その他は特に問題はなかった。過去の体験と重ね合わせても、私はホストファミリーと共に、過ごすことが楽しかったが、一日中、外で英語漬けになったあと、気楽に過ごせる点では、ホテル住まいも、今後の選択肢となるだろうと感じた。

翌日、ショー先生と、エリカさんが、タコマ市内を案内して下さった。特に大きなショッピングモールで、娘や息子から頼まれていた買い物をすべて済ませることができて、

大きな課題を終えたようだった。シアトルはまだまだ寒く、先週前半までは雪が降っていたとのこと。この日も気温は最高が 9 ℃だった。夕食時も、ショー先生はどの店でもすぐ知り合いと一緒になるので、会話を楽しむことができた。9 時過ぎに帰宅、シャワーを浴び、ベッドに入った。前回の訪問でも驚いたのだが、ケント地区の人は就寝時間が早い。9 時半とか遅くても 10 時にはベッドに入る。それはいよいよ明日から始まる学校生活と大きく関係しているのだが。

3 月 23 日（月）

ケントウッド高校、登校初日、5 時 30 分に起き、トーストとコーヒーとイチゴを食べ（ショー先生は普段朝食は skip）、6 時 20 分、学校に向かう。あたりはまだ暗い。6 時 50 分学校着、すでに大半の先生方が、出勤されていた。生徒たちに会うために日本語の教室に向かう。1 時間目が始まる 15 分前には 5 人全員が揃った。みんな元気だ。土日二日間の報告が始まる。一様にホストが優しく、大切に扱われ、とても幸せそうだ。ホッと一安心。

この学校のカリキュラムは、日本とは次の二点で非常に異なっている。(1)年間二期制(semester 制)を採用しているが、一学期の間は、一日 6 時限の時間割は月曜～金曜まで同じ科目であること。つまり、前期一時間目が日本語なら、前期の間は毎日、一限は日本語であること。(2)教員は全員毎日 6 時間授業、つまり日本のように授業準備等のための空き時間はないということ。その他にも 1 時間目が 7:35 ～ 8:28、2 時間目が 8:34 ～ 9:27、3 時間目が 9:33 ～ 10:31、4 時間目が、10:37 ～ 12:12、5 時間目が 12:18 ～ 13:11、6 時間目が、13:17 ～ 14:10 と 53 分授業（3 限目のみ 58 分）、6 分休憩で、さらに興味深いのは、全校生徒 2300 人という規模の生徒に対応するために、4 限目には昼食時間が組み込まれており、1st lunch（10:31 ～ 11:01）、2nd lunch（11:06 ～ 11:36）、3rd lunch（11:41 ～ 12:12)と、曜日によって決められている点である。その他に、補習等に当てるために 0 時間目（6:35 ～ 7:25）が用意されている。

この日は、昼食までの約 3 時間、4 人の Assistant Principal（副校長）のうち、Ms. Aida Fraser に校内案内と、すべての科目の授業を見せていただいた。その折の写真は、第三章の「想い出の写真館」にも添付しているが、訪れた順に、演劇、ICON THEATER（学内の劇場）、木工（20 数万円で販売されている机も製作されていた）、情報処理、オーケストラ、コーラス、ブラスバンド、（音楽関連の授業では、その都度私たちのために演奏をしていただいた）、園芸（よく手入れされた温室が印象的だった）、体育、保育（はじめは、教職員のための校内にある託児施設だと思ったのだが、実際に生徒が子どもの世話をしていて、授業と保育所の一石二鳥の役割を果たしていた）、外国語（スペイン

語、フランス語、日本語）である。どの教室でも、われわれ 6 人が自己紹介をすることになったので、さすがに、20 回近くの「Nice to meet you.プラスひと言」はかなり疲れた。昼食時となり、カフェテリアでそれぞれのホストと食事をとる。日本人同士で集まらずに、5 つの輪の中にそれぞれが入り込み、話す努力をしようとしている姿を見て、我が生徒を誇らしく思った。私も、先生方専用の休息のラウンジに、ランチを持ち込み、周辺にいた職員の方に適当に混じって、食事をした。一緒のテーブルについたのが清掃担当の職員の方たちのグループで、ケントウッド校の印象や、大阪のことを詳しく尋ねられた。中にお一人、東京に旅をしたことがある方がいて、その折のことも話をしてくださった。北野のように、朝礼台で紹介されるより、こういった形で最初に職員の方々に出会い、仲間入りさせていただくのが、より自然でいいかもしれないと思った。

実際に、学校長の Mr. Doug Hostetter とは日々お会いしていたが、公式にご挨拶をという機会は設けられていなかった。日本から持って行ったお土産も、初日の学校案内のときに事務所でお会いしたときにお渡しした次第である。

5 限、6 限は、日本語担当でこの交換留学担当のミャーン先生（Ms. Jang Miyeun）の日本語の講座に参加させていただいた。授業は、日本語による挨拶から始まるのだが、「みなさん、おはようございます。お元気ですか？」と先生が言葉を発すると、生徒たちは大声で「お陰様で、元気にしております。先生もお元気ですか？」と返してくる。不自然と言えば不自然だが、過度な丁寧さがやけに心地よかった。せっかくの日本語のネイティブが来ているというので、この日は約 30 人の生徒が 6 つのグループに分かれて、5 分ごとに我々が違うグループを回り、日本に関して日頃から持っている生徒の疑問に答えていくというスタイルで進んだ。World Language には、Spanish、French、Chinese、American Sign Language（手話は世界共通語ではない）と提供されている中で、Japanese を選択学習している生徒だけあって、日本に対する興味、関心は高く、日本映画（特にホラー映画）やアニメなどにかなりの知識を有していたのは驚きだった。ミャーン先生は韓国から来られた方なので、訪問団の 5 名の生徒たちにとっては、ネイティブとして、この授業の中での活躍の場は多く、また選択生徒からも大歓迎だったので、楽しそうに自らの知識を披露していた。滞在中にすべての日本語選択生に会って欲しいとのことだったので、24 日は 1 限、2 限に 25 日には 3 限、4 限に協力することとした。

先生方の勤務時間は 2 時 10 分までである。この日も 3 時過ぎには、湖でボートを浮かべて釣りの予定だったが、あいにく雨が強く降っていたので、急遽、先生方 5 人で、ケント地区にあるボーリング場に行った。合衆国全体のことは判断できないが、ケントではボーリングがブームだそうだ。KENT BOWL では、平日にも拘わらず、特に年配の

方々を含む多くの方々が、ゲームを楽しんでおられ、スコアも 200 up される方も希ではなかった。この後、同じメンバーで、イタリア料理店に直行し、WBC 観戦をした。日本と韓国との決勝の日で、店は大いに盛り上がっていた。大半は日本をというか、イチローを応援されていて、改めてシアトルでのイチローの人気のすごさを実感した。試合後半は、ショー先生の自宅へ移動しての観戦となったが、特に最後がイチローのタイムリーで締めくくられた試合だったので、日本が優勝したとき先生方の熱狂ぶりはすごいものであった。

3 月 24 日（火）

朝、目覚めると 6 時 20 分、ショー先生も就寝中、この日は二人とも前夜遅くまで起きていたせいか、寝坊。服だけ着替えて学校に向かった。学校着、出会う先生から皆等しく「WBC、優勝おめでとう」と祝福していただく。ケントウッド高校のカフェテリアは朝 7 時 30 分から営業しており、朝食メニューも用意されていた。簡単に食事を済ませ、1 限、2 限日本語の授業に向かう。3 限はショー先生の Special Needs Education の授業にお邪魔した。生徒は 7 名、授業中の素行が悪い生徒や、学力の到達度が低い生徒が混在した授業で生徒はそれぞれの課題をこなし、先生と助手 2 名が巡回して指導されていた。途中で、立ち歩く生徒もいたり、教室から逃げ出す生徒もいたり、大声を発したり、指導には苦労されていた。先生によるとこの分野を教えるには、修士課程までの取得が必須であり、高度な理論に裏打ちされた指導が日々必要とのことであった。

この日は、午後 6 時 30 分から、Covington 市の市役所ならび市長の公式訪問が予定されていた。今回の市議会訪問は 3 年前より正式なものとなっており、すべての議員が揃う中で、議長により「Japanese students' exchange day（日本人生徒との交流の日）」制定の発議から始まった。生徒達は議会の流れを実際に体験する機会と、市長席に座って記念写真を撮る許可を得、市長の Ms. Margaret Harto から proclamation（宣誓書）と記念品をそれぞれいただき、よい想い出となったと思う。

3 月 25 日（水）

朝 7 時、いつもどおり日本語の教室集合、7 時 30 分、スクールバスでシアトルに向け出発、今日は、Kent 地区の 4 つの公立高校(Kentwood, Kentlake, Kentridge[東京都立井草高校の姉妹校], Kentmeridian[府立市岡高校との姉妹校]）の交換留学生計 20 名と引率教員 6 名でのシアトル市内ツアーが予定されていた。車中、ワシントン州の交通法規ではスクールバスに対する加害事故は、その他の車に対するものよりは罪が重くなるということを知る。早朝より雨が激しく、ダウンタウン散策は取りやめ、ミュージカルを鑑賞する予定だとのこと。最初に、Pike Place Market に到着、2 時間の自由散策、早速

Starbucks 1 号店に向かう。スターバックスのロゴも 1 号店だけは、オリジナルで、人魚の尾ひれまで描いてあるということだった。店オリジナルの商品は、カップが 1 点のみで、全員同じものを購入することとなった。

10 時 30 分より THE 5TH AVENUE THEATER で、Jenifer Lewis 主演の Hello, Dolly「ハロー・ドーリー」を鑑賞。私にとっても米国でミュージカルを見るのは初めてのことだった。途中一度 10 分の休息をとり、終了が 1 時 30 分。映画の聞き取りに比べて、演劇、特に歌詞の英語を把握するのはきわめて難しい。細かな部分は、聞き逃すことも多かった。生徒はストーリーですら理解できていないようで、終了後は質問の嵐となった。※ストーリー（世話好きの未亡人ドーリーは、金持ちだが口やかましい男やもめホレスと帽子屋アイリーンの仲を取り持とうと奔走するが、そのうちドーリー自身も彼を好きになってしまい、ついには自分を売り込んでしまう。で、ハッピーエンド）映画好きな私としては、大学時代にバーブラ・ストライサンド主演のもので内容は知っていたことがかなり幸いであった。

さて、今回の 2 つ目の課題であるケントウッド高校での、この姉妹校交流の運営方法への本校からの要望事項であるが、姉妹校提携の準備段階から中心的な存在である Kentlake 高の Melton 副校長と、現在 Kentmeridian 高にお勤めの Eric 先生と、前述の日本語担当の Miyeun 先生とで、この日の夕食時に、お話する時間がとれたので、Kentwood 高に管理職を中心とした受け入れ準備委員会を組織する方向で考えていただくとの結論を得た。

3 月 26 日（木）

ケントウッド校で過ごす最終日となった。1 限の日本語講座で、Miyeun 先生がケーキや、飲み物を用意して、farewell party を開いて下さった。共に過ごしたのはわずか 3 日間であったが、クラスの生徒達と写真を撮り合い、抱き合ったり、号泣している姿を見て、派遣生達がいかに密度の濃い時間を過ごしたのかを実感した。その後、Melton 副校長が迎えにこられ、ケントレイク校に移動し、10 時 45 分から一時間半余り、歓迎会が公式に催される。派遣生にケントレイク校のオリジナル T シャツ、トレーナー、スクールピン、キャップ、写真立てに入った Margaret Harto 市長との写真など、記念品の贈呈後、各自自己紹介、立食パーティへと進んでいった。姉妹都市交流担当の先生方の周到な準備を伺うことのできるものだった。一度、ケントウッド校に戻り、4 限、5 限も 1 限同様の日本語クラスでの心のこもった「お別れ会」がさらに続いた。そして、夕刻、ケントレイク校のカフェテリアで新しいホストファミリーと出会い、新しい環境の中で、派遣生たちの後半 1 週間がスタートした。

3 月 27 日（金）

前半の引率を担当した私の帰国の日となった。学校でスタッフの皆さんにお礼と、別れを告げた後、平日で授業のあるショー先生に代わって、Melton 先生が空港まで送って下さった。8 時 40 分、シアトル・タコマ空港にて後半引率の佐川先生と会い、Seattle's Best　Coffee で引き継ぎを行う。9 時 30 分、約束通り堀田裕介君が会いに来てくれた。Melton 先生を交え、4 人で記念撮影。堀田君は本校 119 期生で、当時、自治会長を務めており、3 年前に共に派遣団でシアトルを訪れた 5 人の生徒の中の一人で、現在、早稲田大学の国際教養学部に属し、ワシントン大学に留学中であり、久しぶりの再会であった。フライトが 3 時前であったので、空港周辺を案内してくれ昼食をとりながら多方面での情報交換をすることができた。

おわりに

4 月 3 日（金）、今年度のシアトル派遣団は無事に帰国した。関空で、生徒達は、前半のケントウッド校での生活も、学校としてのとしての受け入れ体制を持つケントレイク校も、同様に良かったと 5 人の生徒が口を揃えて言っていた。ひとつには日本人の先生が日本語を担当しておられるレイク校よりもウッド校のほうが、彼らの存在意義が大きいこともあるだろうが、ウッド校には特別の組織も予算もなく、各先生方の善意のみにこの交流が支えられていることが、生徒の心には強く響いたのかもしれない。同様のことが、毎年の本校での受け入れにもきっと当てはまるのだろう。職務の一環だからということだけではなく、今までホストファミリーを引き受けて下さった保護者や先生方が、無償の優しさや、思いやりを姉妹校からの派遣生に示してくださったように、一期一会の出会いを心から大切に思う気持ちこそがこの種の交流の根底にあるべきものなのだろう。

ケントレイク高校訪問記

英語科　佐川　　昭

3 月 27 日現地時間午前 8 時シアトル・タコマ空港に到着。いよいよ、初めての交換留学生引率が始まります。通関手続きを済ませ、空港に迎えに来ている小林先生に連絡しようとレンタル携帯に切り替えようとしたものの、暗証番号がわからない。説明書を取り出し、何とか使用

可能になり、連絡しようとしたものの、うまくつながらない。やっとつながり、呼び出し音が聞こえたところで、まさかの小林先生登場。無事に引き継ぎをすることができました。

その後、メルトン副校長先生の車でケントレイク高校に到着。簡単に日程等の説明を受け、ランチタイム。サンドイッチ、サラダ、スープを選んだのですが、さすがにボリューム満点。機内食からそれほど時間がたっていなかったのですが、残すわけにはいかないので、何とか完食。昼食中にホストのミア・ウイルソン先生と対面。事前にメールを交換していたので、お互いすぐにわかりました。彼女はミドル・ネームがハシグチ（橋口）ですが、3 世になるので、日本語は簡単な挨拶程度は知っているものの、ほとんど話せません。今日の予定は 6 時からのチェリー・ブロッサム・フェスティバル（以下チェリー・ブロッサムと表記）だけなので、昼食後、ミア先生の車で自宅へ向かいました。彼女のご主人 J. D.ウイルソン氏は退役軍人で現在は市役所にお勤めとのこと。今日は休みなので家で待ってくれているそうです。わざわざ休みを取ってくれたのかなと思いきや、彼は 1 日 10 時間週 4 日勤務なのです。もちろん普通は 1 日 8 時間 5 日勤務なのですがこういった変則的な勤務形態も選択できるそうです。さすがアメリカ、こういうところまで自由の国か、と妙に感心してしまいました。ミア先生のお宅で、しばらく休憩した後、3 人で再び、ケントレイク高校に向かいました。

さて、チェリー・ブロッサムの始まりです。メルトン副校長先生から、最初に今回ケント交換留学に参加している東京都立井草高校・市岡高校・阿武野高校・そして本校の生徒、引率教員とホストファミリーのプレゼント交換のセレモニーがあり、各校教員から一言挨拶をと言われていたので、少し緊張して会場の食堂中央に整列していました。開会に当たり、市長・日本領事館・各校長等 4 ～ 5 人の挨拶があり、その後、1 人ずつ紹介され、いよいよ挨拶をしなければと思ったところ、名前の紹介だけで終わってしまいました。時間が押していたのと、周りの生徒やお客さんたちが適当にしゃべっていて、開会セレモニーに注目している人が少なかったためかもしれません。この式典に対する考え方もいかにもアメリカらしいところでしょうか。

その後は、会場内の屋台やミニステージでのファッションショー、ゲーム、カラオケなど数多くの出し物があり、小さな子どもから一般の方まで幅広い参加者が楽しめるお祭りです。焼きそばを食べてみましたが、見た目は日本の焼きそばとそう変わりません。でも、味は・・・和風スパゲッティの醤油味？でしょうか。メイン会場の発表を見た後、阿武野高校と本校のヒップ・ホップ・ダンスが行われるホールへと移動。タレント・ショー（Talent Show）の発表を楽しみました。100 カ国以上の国・地域出身の生徒が在籍していることもあり、アジア、ヨーロッパのダンスパフォーマンスや歌も披露されていました。興味深かったのはアメリカの生徒たちの歌がほとんど日本の歌（おそらくアニメの主題歌ですが、タイトルはわかりません）で、日本からの発表がヒップ・ホップ・ダンスだったことです。これも一種の文化交流でしょう。

阿武野・本校生のダンスも少ない練習時間のわりには、よく頑張り、観客から歓声を浴びていました。

最後にメイン会場での盆踊りでチェリー・ブロッサムの終了ということになりました。BGM は炭坑節でしたが、ミア先生も慣れた様子で参加していました。こうして長い、長い 1 日目が終了しました。

3 月 28 日（土）、29 日（日）は終日ホストファミリーと過ごすことになっています。
この時期のシアトルは晴れの日が少なく、ほとんど曇りか雨。28 日も朝から雨、時差ぼけの残る中、9 時 30 分ころにゆっくり起床。飲み物は何がほしいかと聞かれ、水を頼んだところ、ビールの中ジョッキほどの大きさのグラスになみなみと入った水が出てきました。これがアメリカサイズの標準なんですね。ミア先生に普段は朝食に何を食べているか聞かれていたので、目玉焼きとソーセージとトーストを用意してくれるのですが、卵は何個と聞かれ、そんなことまで相手に気を遣ってくれるのかと感心してしまいました。さて、朝食後、シアトル・マリナーズの本拠地セーフコ・フィールドに出かけました。午後 12 時 30 分からの球場ツアーを予約してくれていたので、まだシーズンは始まっていなかったのですが、スタンドだけでなく、記者席、オーナーズスイート（観覧席）、さらにグラウンドに降りて一塁側マリナーズベンチに座って記念撮影、公式インタビュールーム、ビジターチーム用ロッカールームなど球場の内部まで見学することができ、大満足の一日でした。昼食後、スペース・ニードル、パイクプレイス・マーケット、スターバックス 1 号店など定番の観光コースを回り、夕食は家でステーキを焼くことに。みんな疲れ気味でしたが、充実した一日でした。

29 日はミア先生の妹のご主人ランディーがボートクルーズに誘ってくれていたので、J. D と二人で出かけました。天気が心配でしたが、実はシアトル滞在中に青空を見たのはこの日だけ。途中昼食休憩をはさんで、2 時間ほど最高の天気でクルーズを楽しみました。ランディーの家に帰り、自慢の日本式のお風呂を見せてもらいました。檜のバスタブでなかなか凝った造りですが、ベッドルームとの間に扉がなかったり、床のタイルに若干違和感があるものの、立派なお風呂でシアトルでの日本文化への関心の深さをうかがい知ることができました。テレビではタイガー・ウッズの復帰第 1 戦を生中継していました。18 番ホールでバーディーパットを沈め、逆転優勝。さすが、タイガー。マスターズへ向けて順調に調整中。実はランディーはかつてプロゴルファーをめざしていたとのこと。2015 年の全米オープン開催コースが近くにあるそうなので、コースでの再会を期待して、彼の家を後にしました。

3 月 30 日（月）

ケントレイク高校第 1 日目。ミア先生の車で学校に 7 時過ぎに到着。副校長先生の部屋の隣の会議室に集合。1 時間目が 7 時 35 分開始。北野よりさらに早い！ドーナツと飲み物が用意さ

れていてなかなかの歓待ぶり。最初に校長先生の挨拶、副校長先生から予定等の説明の後、年間プログラムで留学している日本人の生徒の案内で施設、授業の見学ツアーに出発。実習の授業も数多く開講されており、自動車整備の授業では、生徒が他の生徒や教員の車も実際に格安で修理してくれるそうです。体育館、美術、ビデオなどの授業を見て回り、陶芸の授業担当の先生から、避難訓練(Fire Drill)の説明があり、一緒に避難訓練に参加。授業担当者がグラウンドに誘導、点呼し、警備員に報告。点呼完了の合図が警備員からあると、訓練終了。教室に戻る途中で、日本でもこういった訓練はあるのかと、質問されたので、日本でも同様の訓練はあり、校長や消防署からの講評が最後にあることを伝えると、こちらではそういったものはないが、月に 1 回訓練があるとのこと。陶芸の授業に戻り、生徒たちは自己紹介。ケントウッド高校でも何回か経験しているので慣れたもの。その後は日本語クラスに参加。一日目は無難に終了。下校時に驚いたのは、スクールバスの大行列と生徒の車のラッシュ。ケント地区では公共交通機関がないため、生徒の通学手段はスクールバスか車しかありません。そのため、学校には教員とは別に生徒専用の駐車場も完備。日本とは全く事情が違いますが、これも車中心のアメリカ社会の特徴ですね。スクールバスについて補足すると、おなじみの黄色いバスですが、高校生だと自分が運転できますが、小学生は当然無理なので、まず、7 時 30 分始業の高校生を送り、次に中学生、最後に小学生というふうに、時差で運行しているとのこと。また、スクールバスが停車し、ライトが点滅しているときは生徒の乗降中なので、後続車だけでなく、反対車線の車も停止しなければいけないそうで、違反すれば罰金。ミア先生によると All drivers are supposed to know. だそうです。

3 月 31 日（火）

7 時過ぎに会議室集合。1 限目に本日の予定を相談し、言語系にすることにし、2 限ドイツ語、3 限スペイン語、4 限～昼休み書道実演、5 限フランス語、6 限手話に決定。

2 限ドイツ語：生徒のヨーロッパ文化に関するプレゼンテーションの時間になっていたが、発表はすべて英語。プロジェクターを使ったり、民族衣装を着たり、工夫した発表が多かった。コーヒーメーカーの音がしていたので、さすが授業中も自由なのかなと思っていたら、クレープの説明の後、味見も OK ということで、みな我先にクレープに殺到。そのあとも、ポテトを使ったお菓子や、クッキーなど充実したおやつタイムでした。

3 限スペイン語：授業の大半をスペイン語で進めていたので、おそらく北野生たちには意味不明。初歩の会話で部屋を散らかしている男の子に母親が注意する場面。会話に出てくる単語と色をメモして、初めてのスペイン語体験の後、先生に積極的に質問する生徒もいました。

4 限～昼休み：食堂での書道実演。名前を漢字の当て字で書いていくのですが、10 時 40 分から 12 時 15 分までほぼ休みなしに書き続けるほどの大盛況ぶり。書いてもらった生徒たちも

たいへん嬉しそう。北野生は、机の前にローマ字でそれぞれの名札を貼ってもらっていたのですが、ひとりだけ Crazy Guy と書き換えている生徒がいました。書道披露中も終了後も、通りすがりの生徒たちがその名札を見て大笑いしていました。彼は必ず何かやってくれる男です。

さすがに、休みなしで疲れたので、5 限は休憩。6 限は日本語クラスに戻ったようです。

放課後、メルトン副校長先生の車でショッピングに出発。6 時からの柔道の練習試合のために、メルトン先生はスターバックスの 10 ドルのカードを 2 枚購入。試合の相手はケント・メリディアン高校。体育館に畳を敷いた特設道場に両校整列、審判の紹介の後、2 人の女子高校生が国歌を歌い、試合開始。しかし彼女たちは、歌い終わるとさっきのスタバのカードを受け取り、そのまま帰って行きました。2 ～ 3 分のバイトにしては高収入。てっきり、優秀選手への賞品だとばかり思っていたのですが・・・さて、試合の方は、柔道は素人の私が見てもわかるくらいの初心者も多かったのですが、両校とも男女合わせて 20 人以上部員がおり、保護者も多数応援に来るなど柔道に対する関心の高さを実感することができました。

4 月 1 日（水）

1 限はケントレイク高校の生徒たちが作っている校内ニュース番組の録画取り。自己紹介のみの出演ですが、Take 2 で OK がでました。このニュースは各教室のパソコンで見ることができます。今日は Tomoko 先生が都合で休講のため、生徒たちは日本語クラスで先生役として大忙しでした。

3 限は休憩して校内の写真など撮っていましたが、外はなんと雪！エイプリル・フールではないですよ。さすがにこの時期の雪は珍しいそうです。

6 限は ESL (English As a Second Lauguage [beginner])第２言語としての英語（初級）に全員で参加。生徒はソマリアからの 3 名と、ベトナムからの 2 名のみ。先生はほぼナチュラルスピードで説明し、生徒もそれに普通に答えたり質問したりしているので、思わず「どこが初級なん？」と口走った生徒も。本校生もちょうど 5 人なので、全く同じように授業を受けさせてもらった。発音練習では、最初はその単語の発音練習をし、次に一音除いた発音練習。次に語頭と語末の子音を交換して発音練習などテンポよく進む。（例：pat f without tef is c pat f → tap f）続いて書き取り練習。最初は単語を聞いてその語を書いていく。次に 6 単語になったところで、その 6 語を制限時間内にできるだけ多く丁寧に書く練習。本校生は 4 行から 5 行書けたが、彼らは 3 行がやっと。授業担当の先生によれば、彼らは小学校も行っていないので、日常会話には不自由しないが、読み書きはほとんどできないそうだ。後半は朝録画したニュースを一緒に見た後、教室にある本を読む読書タイム。彼らにとっては貴重な、活字にふれる時間。

放課後は生徒たちの最後の買い物の時間。それぞれホストファミリーと一緒にショピング・モールへ集合。それぞれ買い物を楽しんだようです。

4月2日（木）

いよいよ、最終日。いつものように、7 時過ぎ会議室集合。もう 1 個スーツケースが増えた生徒もいるぐらい、みなそれぞれ多くの荷物と思い出を持って集まりました。10 時 30 分に学校を出発するので、2 限目まで授業を受けて会議室再集合。出発まで約 1 時間あったものの、写真を撮ったり、語り合ったりしていると、あっという間に時間が過ぎてしまい出発の時間になりました。名残を惜しみつつ、それぞれ、ホストファミリーの車で空港集合。チェックインをすませ、シアトルに別れを告げることとなりました。

振り返れば、あっという間の 1 週間でした。ホストファミリーのウイルソンご夫妻、メルトン副校長先生を始め、数多くの先生方にいろいろお世話になり、感謝の気持ちでいっぱいです。特に、私を家族の一員のように接してくれたウイルソンご夫妻のホスピタリティには頭が下がります。人間として大切な何かを教えてもらったような気がします。どうもありがとうございました。

また、生徒たちもこの 2 週間の交換留学は、一生忘れることのできない貴重な経験になったことと思います。このプログラムがますます発展することを願って報告を終わりたいと思います。

（追記）帰国約 1 ヶ月後に、新型インフルエンザのために、大阪・兵庫の学校が臨時休校になることなど、この時には想像さえしていませんでした。